問題 1

基礎編

日本的経営

日本的経営の特徴である年功序列、終身雇用が崩れつつあります。この状況に対して、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。「賛成」「反対」の立場を明確にした上で、その根拠を述べてください。

（800 字以内：制限時間 45 分）

■■ 課題小論文作成のポイント ■■

この小論文のポイントは、「小論文の書き方の基本」（P1）で説明したことを理解し、実際に書くことができるかという点である。よって、以下の７点ができているかがポイントになる。

① 「主張」が最初に述べられているか。
② 「主張」の次に「根拠（理由）」が述べられているか。
③ １つのコンテンツを１つのパラグラフで表現できているか。
④ 段落の最初に要約文を提示できているか。
⑤ 制限字数の８割以上は書けているか。
⑥ 誤字脱字はないか（ただし、慶應大学大学院の入試は日本語の国語辞典の持ち込みが可能なので、知らない漢字は辞書で調べてかまわない）。
⑦ 制限時間内に書き終わっているか。

■■ 解答例 ■■

私は年功序列、終身雇用の崩壊に賛成である。

その理由は、これら制度を維持することにコストがかかりすぎ、企業の収益を圧迫し、企業の存続ができなくなる恐れがあるからである。年功序列や終身雇用というのは、市場が成長しているときには非常に有効に機能する。成長市場下では､売上は右肩上がりで伸び､売上の伸びがコストの上昇を上回ることによって、利益も年々増加するという循環が形成される。このような状況下では、熟練した技術によって、業務を効率的におこない、仮に年功序列によって人件費が上昇したとしても、その上昇は、熟練による効率性や売上高の上昇でカバーできるのである。しかし、現在は、多くの市場において、成長市場から成熟市場あるいは衰退市場へと移行しつつある。このような状況下で、年功序列や終身雇用を維持すると、売上が伸びないのに人件費としてのコストが上昇し、利益が低下してしまうケースが多い。これでは企業の存続はできない。

また、年功序列や終身雇用のもとでは、若手の従業員が夢を持って働くことができず、若手のモチベーションが低下してしまい、企業の将来的な成長を阻害する点も賛成の理由として挙げたい。これら制度の存在は、年齢によって様々なものが決定される。例えば、給与がいい例である。年をとれば必然的に給与が上昇するために、長年同じ組織にいる場合、仕事をしなくとも昇進や昇給がおこなわれるということである。これは若手がいくらがんばろうとも、昇進や昇給のチャンスがないことを意味する。そのために、当然のことであるが若手のモチベーションは上がることなく低下してしまう。これから会社を担っていく若い人材のモチベーションが低いということは、組織という点からすると、将来的な発展性は望めないのである。(736 字)